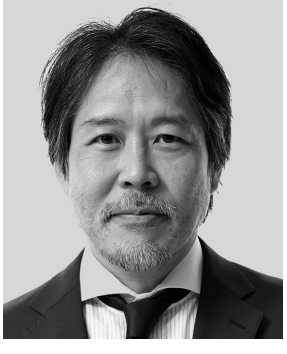
◇経済倶楽部講演会第４５１５回（11月１日）

イスラエルはどこに向かうのか
―拡大する中東問題とその余波

一橋大学大学院社会学研究科教授　福富（ふくとみ）満久（みつひさ）

＊イギリスの〝三枚舌〟外交が根本原因
＊イスラエルとユダヤ人について
＊パレスチナ問題の出発点は何か
＊イスラエルの政治動向について
＊三つあるイスラエルの選択肢を考える
＊周辺諸国との対立の経緯
＊パレスチナ国家は可能なのか
＊アメリカはなぜイスラエルを支持するのか
＊ガザ紛争の着地点はどこにあるか
＊抵抗を支援するイランは何を考えているか



山縣　それでは開会いたします。（拍手）

本日の講師をご紹介いたします。一橋大学大学院で社会学研究科の教授をなさっている福富満久先生です。イスラエルの問題が非常に社会の焦点になってから、なぜイスラエルがあそこまで反撃をし、国際世論の批判を浴びながらも戦火を拡大しているのかとか、なぜアメリカがあそこまでイスラエルに肩入れをしているのかとか、それから、戦火がイランとイスラエルの直接の応酬にもなってきていて、いったい中東のイランとイスラエルの関係はどこまで悪化していくのか、さまざまな注目点があると思います。私ども事務局としてもイスラエルの問題をどこかで扱えないかと思ってずっと考えておりまして、今日先生にお越しいただきました。

先生は、早稲田大学の政治経済学部を卒業されまして、パリの政治学院で学ばれて、早稲田大学で博士課程を修めておられます。海外のご経験もいろいろありまして、実際ＪＩＣＡのお仕事でチュニジアに３年半いらっしゃって、それからカリフォルニア大学のサンタバーバラ校にリサーチフェローとして１年、ロンドン大学キングスカレッジの戦争学研究科にシニアリサーチフェローとして１年と、非常に多彩な海外でのご経歴を持っていらっしゃいます。国際金融情報センターでカントリーリスクの問題も手がけられたご経験を持ってらっしゃいます。

東洋経済で２０１８年、『戦火の欧州・中東関係史―収奪と報復の２００年』という本をお書きになっていまして、この本を私も読ませてい